



## 使徒信条

天地の造り主、全能の父である神を私は信じます。そのひとり子、私たちの主イエス・キリストを私は信じます。主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府に下り、三日目に死人のうちから復活し、天に上られました。そして全能の父である神の右に座し、そこから来て、生きている人と死んだ人とをさばかれます。聖霊を私は信じます。また聖なる公同の教会、聖徒の交り、罪の赦し、からだの復活、永遠のいのちを信じます。(アーメン)

礼拝では「使徒信条」という文章を唱えます。これはキリスト教とは何を信じているのかという信仰の基準を伝えるもので、その内容は父なる神、神の子イエス、そして聖霊である神への信仰の告白です。

キリスト教の神は、父なる神と、子なる神（イエス）、そして神の霊である聖霊という三つの「位格」を持つ唯一の神として、「三位一体」と言います。「位格」（ペルソナ、person）とは、「それ自体として存在するもの」という意味があります。神があるときはイエス、あるときは聖霊という現れ方をするというのではなく、神の本質は一つであるが、それ自体として存在する父、子、聖霊という別の位格を持つと考えます。

父なる神はこの世界を創造された神です。そしてこのわたしも造ったお方です。神はわたしたちを造られただけでなく、愛し、恵みを与えてくださいます。しかし聖書は、人間は罪を犯し、神から離れてしまったことを教えています。神はそのような人間を救うために、神の子イエスを救い主として世界に送ってくださいました。イエスは聖霊によって、おとめマリアから生まれ、人間となりました。

ユダヤ教の聖書でもある旧約聖書には救い主が来ることが預言されていましたが、イエスこそがその救い主であると信じた人々がキリスト教徒となっていきました。イエスは神と隣人を愛することを教え、病人を癒し、弱い立場の人々や罪人と呼ばれた人々の友となりましたが、人々はイエスを信じずに訴え、イエスは十字架で処刑されました。それはわたしたち人間の罪をすべて身代わりとして背負い、代わりに神の裁きを受けられたからでした。それによってわたしたち人間は神から赦され、救いをいただきました。そしてイエスは十字架の死から3日目に復活し、永遠の命への道を開かれました。40日目に天に昇られたイエスは这个世界が終わる時に再び地上に来られます。その日は神に逆らうすべての力は滅ぼされ、救いが完成する時です。その日までわたしたちは、聖霊に助けられながら、イエスの教えを守り、伝え続けます。

イエスは十字架にかかる前に、弟子たちに「聖霊」を遣わすと約束されました。そして約束通り、イエスの復活から50日目に聖霊がくだりました。聖霊は神の霊であり、「弁護者」「助け主」とも呼ばれます。聖霊はわたしたちのうちに住み、わたしたちを教え、助け守り、信仰に導いてくださる神です。

さらにお知りになりたい方は、ぜひお近くのルーテル教会にお越しください。